

キャリア支援プログラム

キャリアプロ

WAM助成フォーラム2019

2019年9月30日(月)

一般社団法人サステイナブル・サポート

代表理事 後藤千絵

団体の概要と助成事業の背景

一般社団法人サステイナブル・サポートとは

一般社団法人サステイナブル・サポートは、「誰もが自分らしく生きている社会」を目指して活動しています。

特に、発達障害や精神障害など、目に見えない生きづらさのある人が、働くことを通して自分らしさを取り戻すサポートを提供しています。

knocks



ノックス岐阜

- 就労移行支援事業所
2015年10月～
- 就労定着支援事業所
2018年10月～

アリー
alley



アリー(alley)

- 就労継続支援B型事業所
2019年10月～



まぜこぜフェス

- ダイバーシティ啓発イベント

発達障害や精神障害のある人への障害福祉サービス



ニート・ひきこもりの発達障害者率
約30%

※2007年～2009年厚生労働省調査等

■ノックス岐阜を利用者の学歴

(76人 2018年10月調べ)

大学・大学院卒業	・・・	40%
大学等中退	・・・	50%
短大・専門学校等卒業・中退	・・・	74%

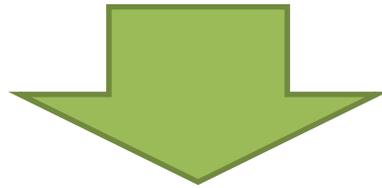


※写真はイメージです。

■ ノックス岐阜を利用する人の特徴

- 卒業後に診断を受ける
- コミュニケーションが苦手
- 自己理解・特性の受容が乏しい
- 生活面での課題がある
- 「自分は何をやってもうまいかない... 自信がない...」
- 「生きてる意味が分からない... 死にたい...」

目の前の困っている人に手を差し伸べる



困っている人をうみださない仕組み

キャリア支援プログラムの開始(2017年8月～)



「働く」をはじめめるために。

キャリア支援プログラム
キャリアプロ

就職活動の進め方が分からないあなたへ
就活の“コツ”を学び、社会に出る準備をはじめませんか?
あなたのペースに合わせた就活をサポートします。

自分の強みがうまく伝えられず、理解してもらえない
働く意欲が湧いてこない...
とにかくコミュニケーションが苦手だ...

ひとりで悩んでいませんか?
とりあえずインターンシップをやってみたい!
相談できる相手がいない、同じ悩みをもつ人と話してみたい
飽きずに長く仕事ってなんだろう?

詳細はWebサイトで!

会場申込問合せ

Sustainable Support

一般社団法人サステイナブル・サポート(担当:佐々木・高井)
〒500-8175 岐阜県岐阜市長住町2丁目7番地 アーバンフロントビル3階
☎070-5579-7747 / 📧career@sus-sup.org

山丹町助成

※保護者からのご相談・お問い合わせも受け付けております。

詳細はウラ面をご覧ください

対象:就職活動やコミュニケーションに不安のある学生

■ジョブゼミ(無料)

毎月3回程度、土曜日の午前中に就活やコミュニケーションの講座を実施。

■学生ラウンジ(無料)

毎月3回程度、土曜日の午後実施。自由参加の空間で、他者との関わりを体験。

■インターンシップ(有料・1万円)

希望者に、希望する業種・職種での5日間のインターン体験を提供。仕事のイメージを得ると共に、自己理解を促進。



「予防的支援」の提供



就職でつまづき
生きづらさを感じ
ることを防ぐ
「予防的支援」



キャリア支援プログラム

キャリアプロの対象学生

キャリアプロは、丁寧な支援が必要な学生のためのプログラムです。

キャリアプロはここです！

自分ができる

**新卒学生
就職支援**

- 企業合同説明会
- インターンシップ
- 就職ガイダンス

丁寧な支援が必要

**一人ひとりのペース
に合わせた就職支援**

- 自己理解
- インターンシップ
- 就活支援
- 定着支援

特別な支援が必要

**障害者
就労支援**

- トライアル雇用
- ジョブコーチ
- 就労移行支援
- 就労継続支援
- 発達障害者
- 就労支援カリキュラム

- <大学> 就職支援担当
- <国> 新卒応援ハローワーク
- <民間> リクナビ、マイナビ

- <国>
地域若者サポートステーション

- <大学> 障害学生支援担当
保健管理担当
- <国県> 地域障害者職業センター
障害者就業・生活支援センター
発達障害者支援センター
ハローワーク(障害者就労支援チーム)
- <民間> 就労移行支援事業所
就労継続支援(A型・B型)

発達障害や他の精神疾患の診断の有無にかかわらず、
社会適応が困難で将来的に生きづらさを抱える可能性の
高い大学生へのキャリア支援

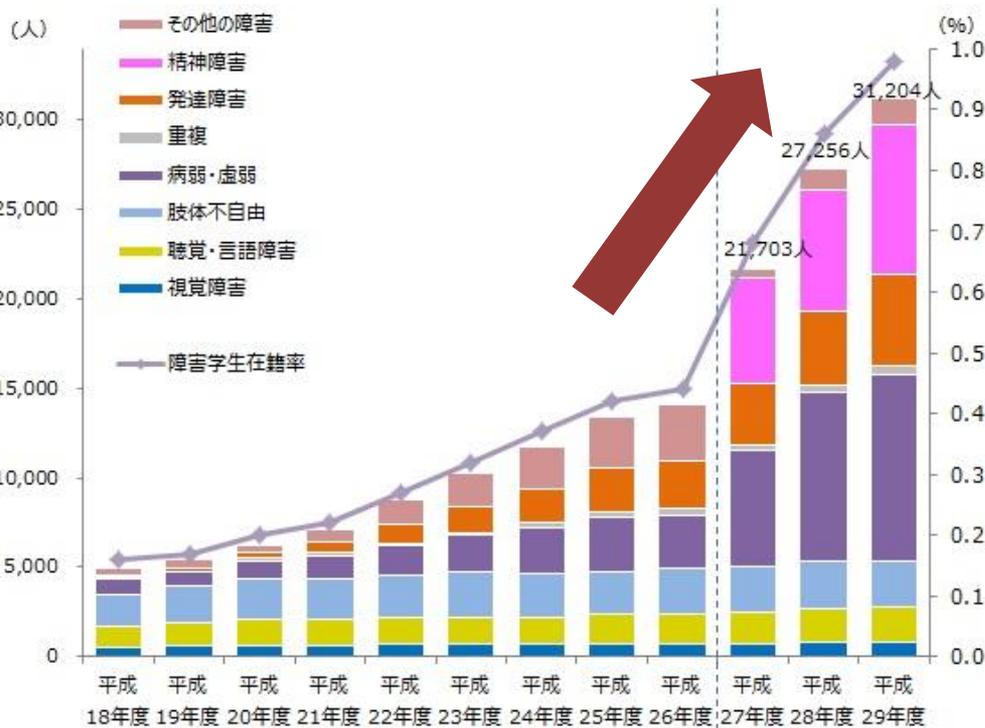
大学における発達障害学生やその傾向のある学生の状況

発達障害学生への対応はスタートしているが、診断のないグレーゾーン学生への具体的な対応策はほとんどない状況

大学における発達障害学生の受入れや支援の状況

全国の大学、短期大学及び高等専門学校における障害学生の状況

障害者差別解消法 施行(平成28年4月)により、障害学生の受入れ、把握が進み、統計上の数値が急激に増加



(出所)日本学生支援機構(JASSO)

大学現場の状況

障害学生支援室に相談に来る人数が **急激に増加**

岐阜大学サポートルーム利用者の

76% が発達障害に関する相談

平成29年度岐阜大学活性化経費(地域連携)事業
シンポジウム報告書 p.1-3

潜在する可能性

通常学級にいる発達障害の

可能性のある児童生徒の割合 **6.5%**

「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な 教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果」文部科学省 H24. 12

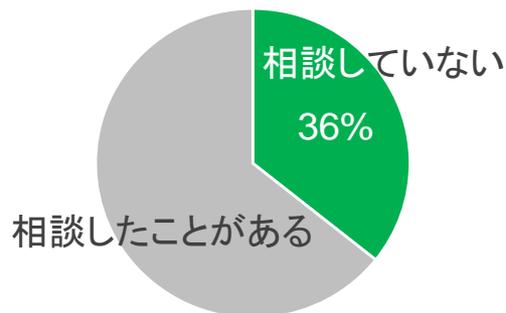
大学現場における不安の声、課題(アンケート等)

大学現場の教員において、「丁寧な支援が必要な学生」を担当したケースがみられます。大学教員からは専門的な対応を求める声が上がっています。

<過去5年間に担当した学生(教員の回答)>

学生	担当したと答えた教員
特別な理由がなく遅刻や欠席が多い	58 %
他のゼミ学生と明らかにコミュニケーションが取れていない	51 %
指示に対して反応がなく、表情も乏しい	40 %
提出期限が毎回のように守れない	31 %
一つのことに非常にこだわり、柔軟に対応できない	27 %

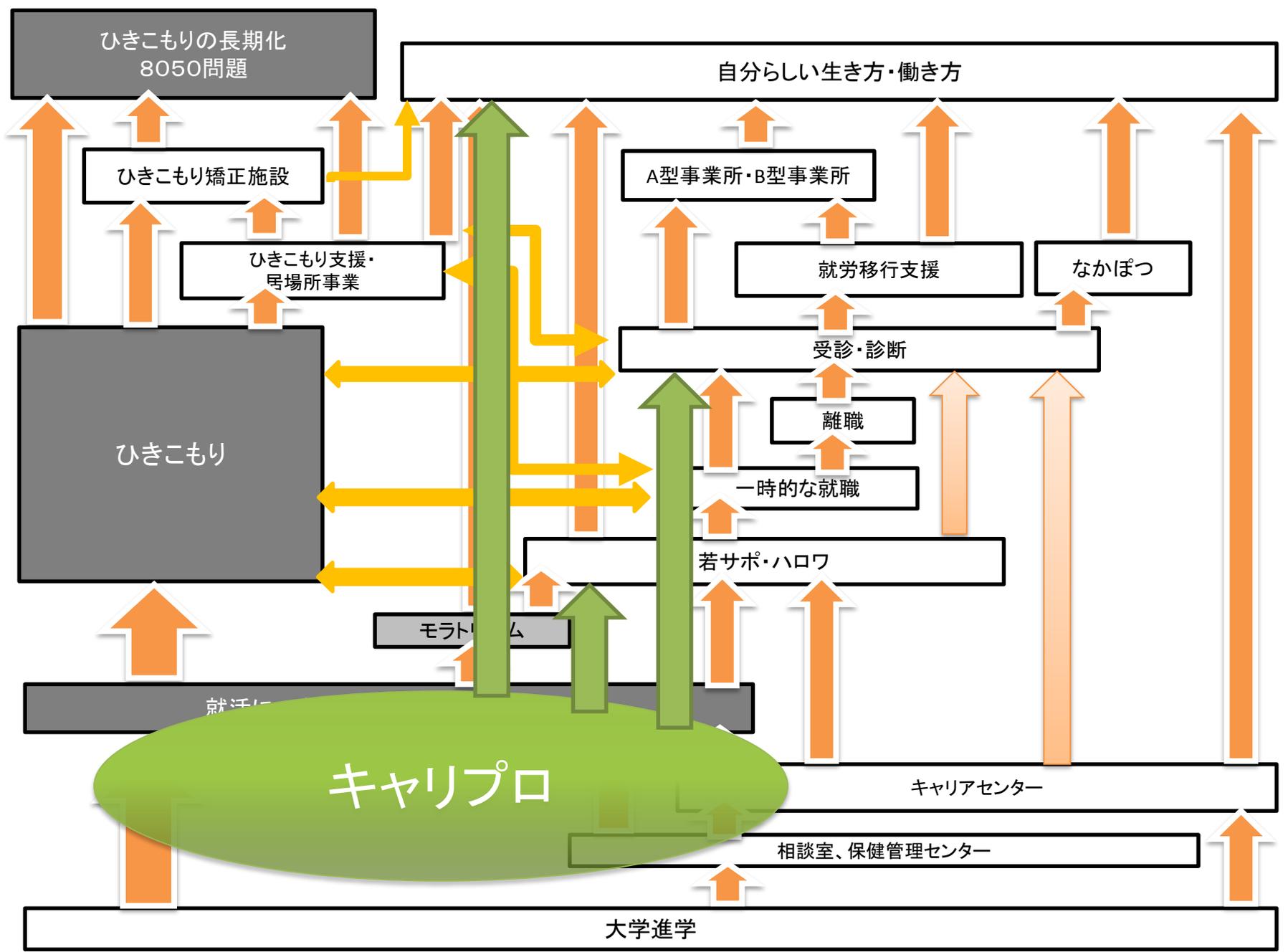
Q. コミュニケーションを一因として、研究や就職活動で苦勞した学生について、学内・学外に相談したことがありますか？



教員

- 性格なのか、病気なのかの判断・対応が困難なことが多い。
- 発達障害と見受けられる学生がいるが、本人には言えない。
- 障害がある場合の対応が極めて難しい。
- 対応は教員にはできないと感じた。専門スタッフの充実を望む。

発達障害の特性はあるが診断のない学生を取り巻く課題の状況



就職活動がうまくいかず無職のまま若者が学校を卒業し、ひきこもりやニート、うつ病などの精神疾患とならないよう、社会に出る前に適切な支援を受けることで社会適応を目指す。



実施した事業の内容と伴走支援

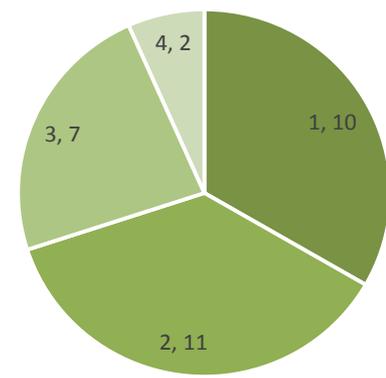
■参加者数<2017年度～2018年度実績>

19校の大学等から30名の参加者

19校内訳 : 国公立大学院 2、国公立大学 6、私立大学 6、その他専門学校 5

■参加者の属性<2017年度～2018年度実績>

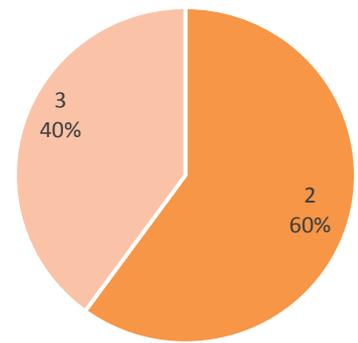
- ・大学等在学(最終学年):10名
- ・大学等在学(最終学年以外):11名
- ・大学等既卒:7名
- ・その他:2名



■発達障害特性の自覚<2017年度～2018年度実績>

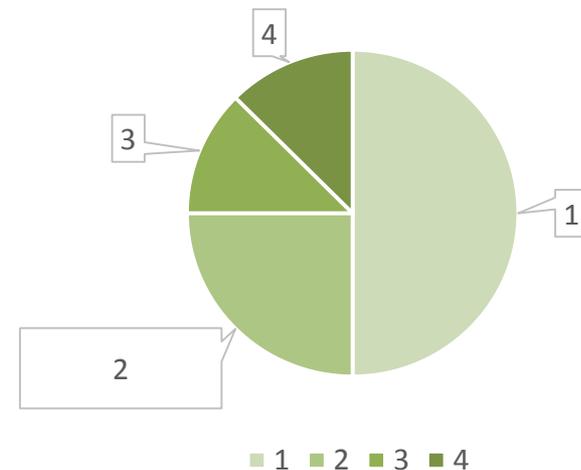
あり 18名 / なし 12名

※障害者手帳を所持、通院歴がある等



■ 自己理解の促進

75%の参加者(8名中)が
「自分の得意・不得意について
気づきがあったと回答」
(大いにあった、少しあった)



「基礎的日常生活」「セルフマネジメント」はプログラム参加者8名中7名(87.5%)に
事前・事後でプラスの変化が確認された。

「自己理解」「コミュニケーション」「就職活動」「ビジネススキル」については、全ての参加者(100%)で事前・事後でプラスの変化が確認された。

就職者2名(一般就労・手帳等無し)、進学1名、福祉就労1名、就労移行支援1名、
未定3名(うち1名は就労移行支援利用予定、2名は2018年度キャリアプロ利用)

■ 目的: 事業の効果を可視化して次のステップにつなげたい

第三者機関に「社会的インパクト評価」の依頼を相談

- ・評価のための予算を計上していなかった
- ・評価計画を行う時間がなかった

⇒ 予算や設計が不十分なため、事業評価として外部評価を実施

できたこと	残った課題
ロジックモデルの作成	評価計画が不十分
アセスメント・アンケートの実施	アンケートやアセスメントがロジックモデルとリンクしていない場合も
第三者による事業評価の実施	評価者とのコミュニケーションが不十分
評価について記載した報告書作成	評価全般に関する団体の知識不足

思うように事業が広がらず、焦りと不安が生じる...

浮かび上がった疑問...

- ニーズへの疑問: 本当に必要な事業なのか、対象者は誰なのか
- 成果への疑問: 本当に事業の目的に合った成果が出ているのか
- プロセスへの疑問: この事業の進め方が適切なのだろうか
- セオリーへの疑問: そもそも課題設定と解決策は適切ななのか

■ 目的: 評価を通して事業の価値を見直したい

評価を目的とした伴走支援の開始

- 定期的なミーティング(月1回程度)とこまめなコミュニケーション
- 評価設計からの見直し
- ロジックモデルの見直し



対話を通して思いを言語化
事業の価値を共有する



事業の方向性の明確化

■ 伴走支援による効果

事業の目的を意識したプログラム設計

自分たちの事業の価値を確認・組織内で共有

他者/他団体との連携促進

事業を継続する精神的なサポート

共感の輪の広がり

スタッフ・ボランティア
振り返り会
2019年3月開催



キャリア支援プログラム
報告会
2019年3月開催



■プログラム実施回数<2018年度実績>

- ・ジョブゼミ:24回(土曜日/月1~3回、13:15~16:30)
- ・学生ラウンジConnections:約70回(火・木曜日、15:30~18:00)
- ・短期集中ゼミ:ナツゼミ5日間、フユゼミ3日間、ハルゼミ3日間(10:00~15:00)
- ・インターンシップ:0件 (※2017年度1件)

■プログラム参加状況<2018年度実績>

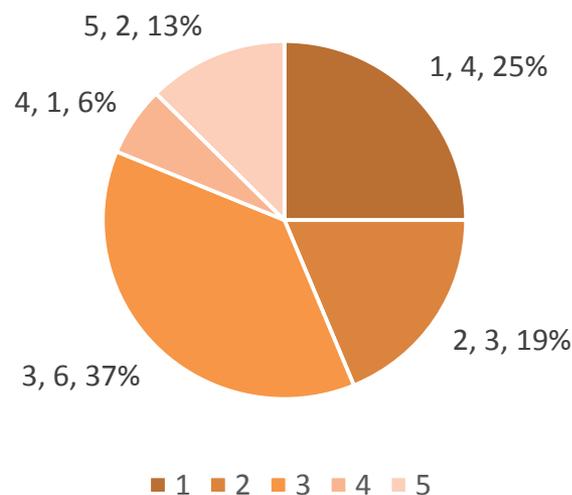
- ・ジョブゼミ:参加者5名~11名/回
- ・学生ラウンジConnections:参加者2名~6名/回
- ・短期集中ゼミ:ナツゼミ4名、フユゼミ4名、ハルゼミ4名



■ 次のステップにつなげる

19名の登録者のうち、プログラム利用者の16名については、次のステップへ移行し、無業のまま社会に出てひきこもり等になることを防ぐための支援を提供した。

ジョブゼミ利用者の進路



就職者3名、在学(次学年進学)5名、福祉事業所の利用4名、アルバイトの継続1名、他の社会資源の利用(地域若者サポートステーション、地域活動支援センター)2名。就職者3名のうち1名は発達障害診断有り(クローズ就労:障害を開示せずに就職)。

終了時アンケート回答者(N=9)のうち67%が「役に立っている」「少しは役に立っている」と回答。

9名中6名が「自己理解が深まる」の項目に対しプラスの変化が見られた。

■ 目的: 事業の価値の仮説を立て、普及のための準備

事業戦略アドバイザーと評価者の伴走支援

- ロジックモデルからTheory of Changeへ
- 現実的に持続可能なモデルを作る
- 事業の価値を評価する



普及のための具体的な取り組み

1. キャリプロinカレッジの実施

キャリプロ(ジョブゼミ・ラウンジ)の大学内での試験的实施。ニーズのある学生との接触から本人の支援ニーズの気付きの促進、継続的な支援へとつなげていく。2019年度実施目標6校(無料)。

2. 実態調査の実施

支援が必要と思われる学生の大学内での在籍状況について「教職員向けアンケート調査」を実施。過去5年間のキャリプロの対象となる学生の対応状況等について回答を依頼、傾向を分析。2018年度1校にてパイロット調査済み。2019年度2校にて実施予定。(協力:三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社プロボノチーム)

3. 研究会の開催

現場支援者、有識者等による研究会を開催。問題の構造と課題解決の打ち手、各大学における対象像および対象が抱える困難の共有、対象のリネーム検討、プログラムの目標設定および効果的なプログラム内容の検討、プログラムの質を担保するための評価方法の検討、資金調達も含めたプログラム普及方法の検討等。

【研究員】

船越高樹(京都大学)
佐々木銀河(筑波大学)
工藤陽介(明星大学)
堀田亮(岐阜大学)
安田和夫(岐阜聖徳学園大学)
井戸智子(名古屋大学)

【アドバイザー】

梅木秀夫(三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社)
岩田克彦(一般社団法人ダイバーシティ就労支援機構)
井川典克(児童精神科医)
秦政(特定非営利活動法人障がい者就業・雇用支援センター)

【オブザーバー】

齊藤正信(文部科学省 高等教育局 学生・留学生課)
井口啓太郎(文部科学省 総合教育政策局 障害者学習支援推進室)
田中尚樹(厚生労働省 発達障害施策調整官)
加藤永歳(厚生労働省 発達障害対策専門官)



【事業戦略アドバイザー】
一般財団法人CSOネットワーク
株式会社風とつばさ

【事務局】
一般社団法人サステイナブル・サポート

■ 評価の導入

評価

事業の成長を促すもの。自己の事業を肯定的な懐疑心で点検し、事業の価値を見つめなおす。

■ 丁寧なコミュニケーション

対話

関係性をつくるもの。事業の価値や意味を理解し共有するために欠かせないもの。信頼関係。

対話を通してお互いの価値観を共有し、事業の価値を見つめなおし、より良い事業の進め方や在り方への気づきを得て、事業を修正し、お互いの理解に基づく言葉で丁寧に言語化し、社会に伝えていくことで、共感の輪が広がる





ご清聴ありがとうございました。